第8回キャンパスベンチャー

審査講評

CVG東北審査委員会委員長
産業技術総合研究所 東北センター所長　**原田 晃**

キャンパスベンチャーグランプリ東北は今回で8回目になりました。私が審査委員を務めるのは今回で4回目になり、審査会を通して学生の皆さんと接する機会を持つことができることが、毎年暮れの楽しみになっています。

今年度は5県の9校から41件の応募がありました。県の数、学校数はほぼ例年通りでしたが、応募総数は残念ながら第6回をピークに減少傾向にあります。来年度は、多くの大学の多くの学生の皆さんに応募してもらえることを期待しています。41件の応募提案から書類審査で13件を選び、昨年12月13日に行われた本審査会でヒアリングによる二次審査を行って、最優秀賞1件、特別賞2件、奨励賞2件、努力賞3件を決定致しました。受賞された皆さまに心よりお祝いを申し上げます。おめでとうございました。

頼もしい「社会に役立つ」提案

最優秀賞は八戸工業大学の中居君らが提案した「ブルーライト照射したセミドライりんごの商品開発」に授与することに致しました。この提案はブルーライト照射条件を工夫することにより新たなりんごの加工品を作ろうというものです。ブルーライト照射による乾燥条件に対するアミノ酸およびポリフェノール量の変化を実験的に捉えた上で官能試験も実施するなど科学的なアプローチがきちんとなされていました。また、地元の特産品に寄り高い付加価値をつけることで地元の産業に貢献したいという熱意が審査委員に伝わってきました。商品開発にはより深い考察が必要でしょうが、是非実現してもらいたいものです。

特別賞は東北大学大学院の瀧澤君の「高齢者に身近な生活圏を自由に移動できる手段を提供する事業」と米沢工業高校専攻科の鈴木君らの「特別な1枚を特別な形で。伝えたい記憶、残したい記憶。」の2件に授与することに致しました。前者は屋根付き電動アシスト自転車をシェアリングする事業を被災地の仮設住宅で行おうというもので、外出する手段を持たない高齢の方々に役立ちたいという熱意を感じました。また、後者は地元伝統の織物技術をもとに開発された写真から織物を作る技術を利用して、世界に一つしかない織物を表紙にしたアルバムを提供しようというもので、地元の伝統産業に貢献したいという気持ちが伝わってきました。

その他、奨励賞を2件に、努力賞を3件に与えることに致しましたが、本審査に残った提案にはどれも面白みがあり、なかなか甲乙つけがたいものでした。

スマートフォンやタブレットPC、SNSの普及に伴って、この2年ほどの提案の中にはあたかもこれらを駆使することを目的としたような提案が多くありました。もちろん、今年もIT技術を駆使する提案は多く見られたものの、IT技術の利用が目的ではなく誰かのために、特に元の産業や社会的弱者に役立ちたいという提案が多く見られました。CVGを通して学生諸君が「人のために」という視点でしっかり考えていこうとしていることに頼もしさを感じました。受賞された皆さまにお祝を申し上げるとともに、今後の活躍を期待しております。

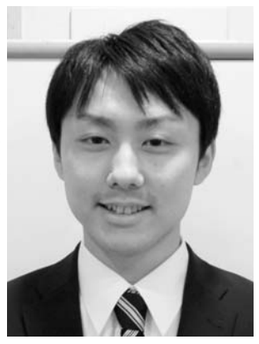
審査委員を前にプランを力説

奨励賞

「習い事、何かしてる?」「私?…食育!」～子どもたちの習食活動～

宮城大学
今野 築／金野 美聡／高橋 美帆／中村 明未

食育を習い事で



今野 築さん

近年、個食、栄養バランスの乱れ、安全性など食の抱える問題は絶えない。これは我々消費者の食に関する知識が不足していることによると感じた。さらに、子ども達が食について学べる機会は家庭の中でも教育の場でも減少しており、正しい食生活を送る大切さを知ることなく成長する子どもも少なくない状況にある。

そこで、子ども達が食について学ぶことのできる「食育スクール」を、習い事という形で提供するのが本プランである。学習内容には座学に加えて調理実習や農業体験などの活動も取り入れており、知識を身に付けた上で体験することができるようにした。

食に関する多彩な経験を通じて、子ども達が食に関する知識を身につけ、将来的に健全な食生活を送ることのできる人間に育つことを目指す。

奨励賞

University Managers ～地方大学のマネージャー～

東北大学　**佐藤 克唯毅**

学生間の格差を是正

佐藤 克唯毅さん

私は就職活動をしていた。都市部でしか説明会や各種セミナー、選考が開催されないため、学生は都市部と自分の住む地方を行き来しなければならない。

交通費・宿泊費・食費がかさみ、金銭面のハンデを負う。長距離・長時間の移動は、本来なら生産的だった時間を著しく減らす。また、仮に平日に選考やインターンを開催され、本業の学業が疎かになってしまう。

地方の優秀な人材を早い段階で、各企業に代わって集め、育て、紹介できる場所があればいい。企業・官公庁は求める人材足りうる学生を〝Managers〟が身近で育み、見極めてきたその場所で、自前で探すもよし、推薦してもらうのもまたよいだろう。学生は、その思いを実現できる環境を〝Managers〟に教えてもらえばよい。

地方と都市部の学生間の格差が広がる現状をどうにかしたい。

地方と都市部互いが切磋琢磨し、世界に対してJAPAN全体で対抗できるようになる。

努力賞

視界モニターの活用による、中小小売業の業績改善支援事業

東北大学
石橋 蓉子／種市 寛人／芝田 慎太朗／今井 悠太／石川 純／渡辺 聡

視線でインサイト発掘

石橋 蓉子さん

現在地域のために頑張りながらも、業績が落ち悩んでいる中小小売業・商店街が一定数存在する。この問題を解決するため、本事業は視覚情報を利用した業績改善支援サービスを提案する。独自の高機能カメラを内蔵した眼鏡をクライアントの店頭でユーザーにかけてもらい、ユーザー視点の店内の様子を映像データとして収集する。視線の追跡によりアンケートでは計れないユーザーのインサイトが得られる。データ分析の結果と実行支援をクライアントに提供し、活用してもらうことでクライアントの業績改善を目指す。本事業はマーケティングリサーチ業界の既存プレーヤーが抱える諸般の課題を解消し、小規模小売店も利用可能な低価格での真のインサイト発掘が可能である。地域に根付いた小売店を支えることで、地域経済活性化の一端を担う。

努力賞

おいてみるんるん

東北大学
宇羽野 郁也／山下 敦史／有泉 光太郎／伊岡森 悠介／高橋 諒

家具設置イメージを「見える化」

宇羽野 郁也さん

ネット社会が進み、生活の支柱となる「衣食住」も今やネットを介すのが当然である。我々はその一つである「住」に焦点をあてた。サービスとしては「家具設置シミュレーションシステム」。今までの引越しや家具購入時に起こっていた「イメージギャップ」、「大幅なタイムロス」の解消を図る。これによりデータにより精巧に作られた仮想の住まい空間において、好みの家具を選択し、あたかもその空間にいるかのように部屋を簡単にレイアウトが可能となる。このサービスを賃貸・不動産情報サイト、そして家具家電販売会社と提携してカスタマーに届け、購入促進と顧客満足度向上を図る。そして部屋を彩る家具の選択を少しでも効率的に、正確に、便利にし、家具設置イメージの「見える化」でより良い「住」の実現をする。

努力賞

ぶらり旅 ～廃線を利用して地域活性化を!～

会津大学短期大学部
富樫 有里沙／安田 千裕／三瓶 沙織／渡部 好美

廃線で地域交流

富樫 有里沙さん

近年、地域鉄道の廃線や赤字経営が深刻化している。そこで私達は、地域活性化の一つの取組みとして、廃線の電車を利用し、電車の中で食事をしながら、風景を楽しむことができる専用の旅行プランが作れないかと考えた。

「行きは目的地の歴史や名所をスライドショーで楽しんでもらい、帰りはその地の伝統料理を食べる。食事は伝統料理が中心となり、地元のおばあちゃんが車両内で調理する。実際に作った本人と会話でき、新たな交流が生まれることになる。

特徴は、利用者に対し、あらゆる世帯の人々に利用価値がある点である。一人旅や家族連れ、カップルなど、人数を限定することなく利用出来る。

本プランでは、利用者により地域に関心を持ってもらうと共に、観光客やリピーターの増加にも繋がることが期待される。

CVG東北

CVG東北審査委員会　(敬称略)

委員長	原田　晃	(産業技術総合研究所東北センター所長)
委　員	滝本　浩司	(東北経済産業局地域経済部長)
	伊藤　努	(宮城県産業技術総合センター所長)
	高玉　昌一	(東北経済連合会常務理事)
	八島　和彦	(みやぎ工業会専務理事)
	小林　邦英	(宮城産業人クラブ副会長)
	石上　明男	(日刊工業新聞社取締役東京支社長)
アドバイザー	佐藤　薫	(東北経済産業局地域経済部特許室長)

新規会員募集中!!

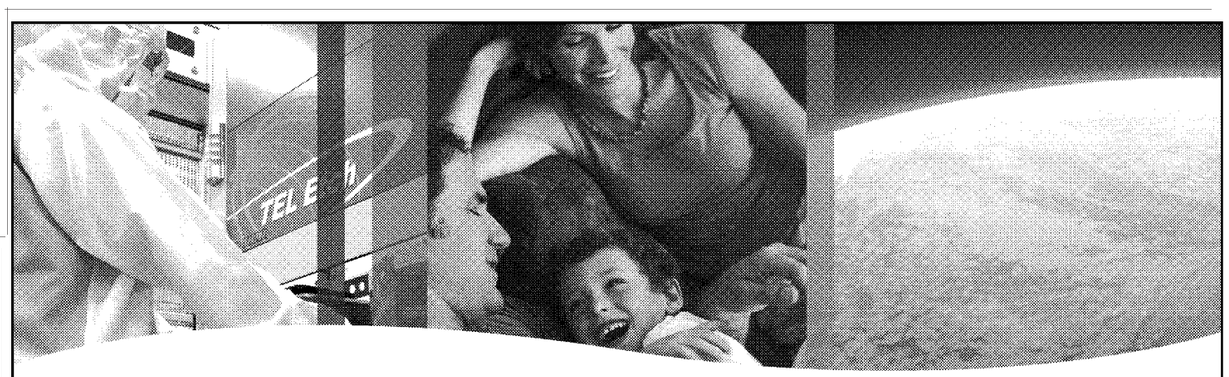
産業人クラブは経営者の意志決定に欠くことのできない情報とチャンスをもたらします!
●地域産業経済発展のために
●異業種交流の場に
●経営・技術情報の収集の場に

いわき産業人クラブ
会長 菅　榮藏
〒960-8068 福島市太田町8-8-203
(日刊工業新聞社 福島支局内)
TEL024(573)6105　FAX024(573)6106

福島産業人クラブ
会長 立石吉識
〒960-8068 福島市太田町8-8-203
(日刊工業新聞社 福島支局内)
TEL024(573)6105　FAX024(573)6106

山形産業人クラブ
会長 松村英一
〒990-0043 山形市本町2-1-2
(日刊工業新聞社 山形支局内)
TEL023(631)8932　FAX023(631)8797

宮城産業人クラブ
会長 工藤治夫
〒980-0011 仙台市青葉区上杉1-17-18
(日刊工業新聞社 仙台総局内)
TEL022(225)8734　FAX022(225)8736



半導体製造装置の技術が、夢のある未来社会をささえる。

東京エレクトロンは、半導体をつくる機械をつくっています。半導体は、ありとあらゆる電子機器に搭載される大切な部品。
その技術革新は、今まで人々が手にしたことのないもの、これまで見たこともない世界を生みだす大きな可能性を秘めています。
想像をはるかに超えた発想で、夢のある未来社会をささえたい。
私たちの挑戦はこれからも続いていきます。

TOKYO ELECTRON　東京エレクトロン宮城株式会社
50 Years TOKYO ELECTRON GROUP
Beyond Imagination.
www.tel.co.jp/tml/